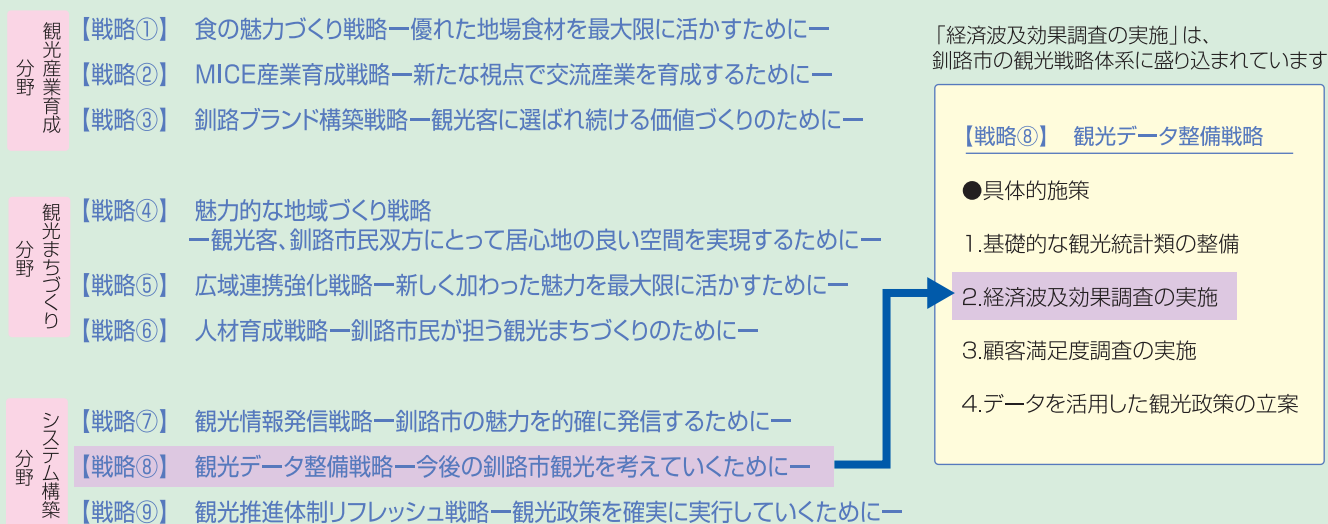


『みんなが担う、みんなが育てる観光のまち・釧路』 ～ 釧路市観光振興ビジョン～

釧路市は、2007年3月に釧路公立大学地域経済研究センターと共同で「釧路市観光振興ビジョン」を作成し、それに基づいて観光政策を進めています。

観光振興ビジョンが目指すのは、「みんなが担う、みんなが育てる観光のまち・釧路」です。
観光振興は、観光事業者や行政だけが取り組むものではありません。
釧路市民一人ひとりが、足元にある釧路の魅力を発見・創出し、さらに情報発信していくことで一層輝きを増すのです。
本調査研究の成果を活かしながら、釧路市を訪れた人たちが「また来たい」と思えるような魅力ある観光まちづくりをみんなで目指しましょう。

●釧路市の観光戦略体系



釧路市観光産業の発展に向けての経済効果に関する調査研究

●ごあいさつ

今、地方は自らの知恵と工夫で地域の産業、雇用の創出を目指していかなければならない時代に身を置いています。その中で、観光への期待が高まっていますが、一方で観光に地域経済を牽引していく力が本当にあるのかという懸念があるのも事実です。

地域の持続的、自立的な発展にとって観光は本当に切り札となりうるのか。それを解明していくためには、観光を地域の経済力を総体的に高め、安定した雇用を維持、創出していく地域産業としての観光の実態を多面的に調査分析していくことが必要です。そこから得られる実証的なデータをもとに、地域の安定的な産業振興と雇用創出に結び付く体系的な観光産業戦略のシナリオを描いていかなければいけません。

このような趣旨で本調査研究は、2009年度に釧路市からの委託を受け、釧路市において観光産業が基幹的産業としての力強い発展を図っていくために、現状の観光消費による経済波及効果の実証的、科学的な分析を進めるとともに、観光地経営に必要な情報を幅広く収集、分析することにより、釧路市におけるより質の高い観光政策の構築に資することを目的に実施したものです。

本調査研究の実施は、(財)日本交通公社の塩谷英生主任研究員、川口明子主任研究員、マーケティング・リサーチャーの関口麻奈美氏が担当し、さらにワーキングメンバーとして釧路市経済部観光振興室、阿寒町行政センター観光商工課、(社)釧路観光協会、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構のスタッフの参加を得ました。また、観光事業者調査の実施にあたり、釧路市内の複数の観光関連事業者のみならずまから貴重な情報をいただきました。さらに、アンケート調査には地域経済研究センターの櫻井亜也研究員や多くの釧路公立大学学生が参加しました。ここに関係の皆様にあらためてお礼を申し上げます。

研究代表

釧路公立大学地域経済研究センター長(学長) 小磯修二

●調査概要

【宿泊客調査】

○調査地点 釧路市内の宿泊施設(秋期は観光施設でも配布)
○調査時期 夏期(8月)・秋期(10～11月)の2回
○調査方法 調査地点での調査票配布、郵送回収(自記入式)
○配布数 6,826票 (夏期3,000票、秋期3,826票)
○回収数 1,075票 (夏期450票、秋期625票)

【日帰り・通過客調査】

○調査地点 釧路市内の主要観光施設(7箇所)
○調査時期 2009年9月18日(金)、19日(土)
○調査方法 調査地点での調査票配布、郵送回収(自記入式)
○配布数 875票
○回収数 160票(うち観光客63票、近隣居住者97票)

【観光事業者調査(ヒアリング)】

○調査対象 釧路市内の観光関連事業者・観光関係団体26箇所
○調査内容 業務概要・利用者の実態・原材料仕入の実態など

釧路市の持続的発展に向けての 観光産業の役割

ー「釧路市観光産業の発展に向けての経済効果に関する調査研究」概要ー



2010年7月

釧路市
釧路公立大学 地域経済研究センター